

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 長井誠

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

動物感染症に関する授業、実習および卒論指導、大学院における動物疾病制御学感染症学分野を担当し、獣医師や学術部門従事者の育成に従事している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
家畜伝染病学Ⅰ	獣医学科	必修	4	138
家畜伝染病学Ⅱ	獣医学科	必修	4	139
家禽疾病学	獣医学会	必修	4	138
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	7
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	6
卒業論文研究	獣医学科	必修	6	6

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

今般の家畜感染症の発生はグローバル化しており、かつてアフリカの地方病であった牛のランピースキン病の国内における発生や、アフリカ豚熱の近国台湾における発生など、予断の許さない状況が続いている。また伴侶動物においては感染症の発生は少ないものの、シェルターや集合施設では依然として感染症が流行している。このような状況から感染症の制御に貢献できる獣医師が求められており、それに対応すべく自ら考え、行動できる人材の育成を教育の責務として取り組んでいる。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

社会における獣医師のミッションは多様であるが、いずれの分野においても社会に貢献できる獣医師を育てたいと考えてきた。特にこの中で産業動物分野の獣医師について、今般の畜産事情を鑑みつつ、獣医師としてどのようなあり方をすべきか、考える力を養えるよう、授業や研究室活動で実践してきた。獣医師しかできない社会的に大切な役割を果たしていくにはどうしたらよいか、担当させていただく授業や実習を通して、この信念に基づいた教育を展開することで社会貢献のできる獣医師を育成していきたい。

経験を活かした獣医学教育、具体的には地方公務員獣医師として家畜保健衛生所および畜産試験場に勤務する中で数多くの感染症に遭遇してきたこと、それを活かしたいと考えている。自らの経験から、できるだけ多くの事例を紹介し、失敗事例も含めて獣医師としてどのように対応すればよいかを一緒に考えてもらうというアプローチを散りばめるよう心がけて授業・実習を行いたい。教科書だけを教材としては感染症に立ち向かえる獣医師は育たないとする。動物の中には家畜のような経済動物もあれば、ペットのような伴侶動物もあり、同じような疾病が発生しても、その対象によって取るべき手段は大きく異なる。清浄化を達成した感染症においても、それぞれ異なったアプローチで清浄化が行われた。様々な伝染病を丸暗記することだけでは、獣医師として現場で伝染病に遭遇した時に状況の応じた有効な

策を講じていくのは難しいと思われる。いろんなケースの中で感染症に対応する考え方を教えるに当たり、基本的なセオリーは大切ではあるが、そればかりでなく具体的な事例をあげて理解を深めてもらうことが大切であり有用だと考える。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

- ・ 双方向の教育体制を構築するため、AzaMoodleを利用してディスカッションを行う。
- ・ 毎回の授業でAzaMoodleを利用した小テストを実施し、授業の理解度を把握する。

#### (2) ICTの教育活用

有

- ・ AzaMoodleを用い、その機能を最大限に活かし、授業や実習に利用する。

### 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

#### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

見たことのない疾病を覚えるのは至難のことと思うため、とにかく実感してもらうよう、授業では写真スライドをできるだけ多く活用し、実際の病性鑑定に則した材料を想定して、診断に至るまでの一連を理解して行うことができるようになることを理想としている。初めて知る疾病であっても覚えやすいよう、一つのことを他のことと絡めて覚えることで理解度を高めようと努力している。

#### (2) 学生の理解度の把握

B

毎回の小テストは理解度の把握に有用であり、毎回授業ごとに実施する。

#### (3) 学生の自学自習を促す工夫

B

自学自習を行ってもらうことの難しさは今でも課題である。予習して授業を受けると理解度が増すと考えており、資料をなるべく早く學理にアップしているが、なかなか予習を促すことができていない。初めての疾病と教科書で出会うのはあまり馴染めないものかと思うが、簡単にまとめたプリントを配布してあるので、その活用がポイントと考えている。

#### (4) 学生とのコミュニケーション

B

授業の終わりに質問をいただき、理解度を深めるのにより機会と感じた。定期試験の直前の質問が多いのが現状だが、いつでも質問をしてもらえるような授業の雰囲気は今後も作っていきたいと考える。

#### (5) 双方向授業への工夫

B

成績評価の一環として行っている小テストは、理解度を確認しながら授業を進めることができ、双方向授業における有用な手段と考えている。

#### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去の出題傾向を分析し、重要なところを示して授業を行っている。出題傾向は17年分の一覧表を作成し、授業中に提示してその対策を行っている。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業に用いている資料について要望をいただくことがよくあり、それに従って修正を重ねている。自学自習の実施については依然、低迷しているが、なかなか予習を促すことができていない。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業資料とスライドは修正を重ねた結果、よりよいものになっていると思う。予習を促すのは難しいと感じている。

### (3) (2) を踏まえた次年度の取組

予習は、内容を簡単にまとめたプリントを授業の前にぎっどでも見てもらうことを周知しようと考えている。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまでも行ってきたが、授業資料をできるだけ早く學理にアップして授業に活用してもらうことと小テストを行うことで復習の機会を与えることが成績向上につながる取り組みだと考えている。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

私がコーディネーターを務める教科の定期試験ではほぼ全員が合格点を獲得しているので、それなりの効果があったと思っている。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD研究会には基本的に毎回参加することを心がけている。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

定年退職まで最後の年となってしまう、悔いのないように毎回全力で努力を重ねるのみと考えている。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

なし